

磐梯山の火山活動解説資料（令和元年10月）

仙台管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1、図2、図3-①）

剣ヶ峰監視カメラによる観測では、山体北側火口壁の噴気の高さは50m以下で、噴気活動は低調に経過しました。櫛ヶ峰監視カメラによる観測では、沼ノ平で弱い噴気が認められました。沼ノ平の地熱域に特段の変化は認められませんでした。

・地震や微動の発生状況（図3-②～⑥）

火山性地震は少ない状態で経過しました。
火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図4、図6）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ（<https://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（令和元年11月分）は令和元年12月9日に発表する予定です。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警戒等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。



図1 磐梯山 山体北側火口壁の噴気の状態（10月20日）

- ・ 剣ヶ峰監視カメラ（山頂の北約7km）の映像です。
- ・ 山体北側火口壁の噴気の高さは50m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

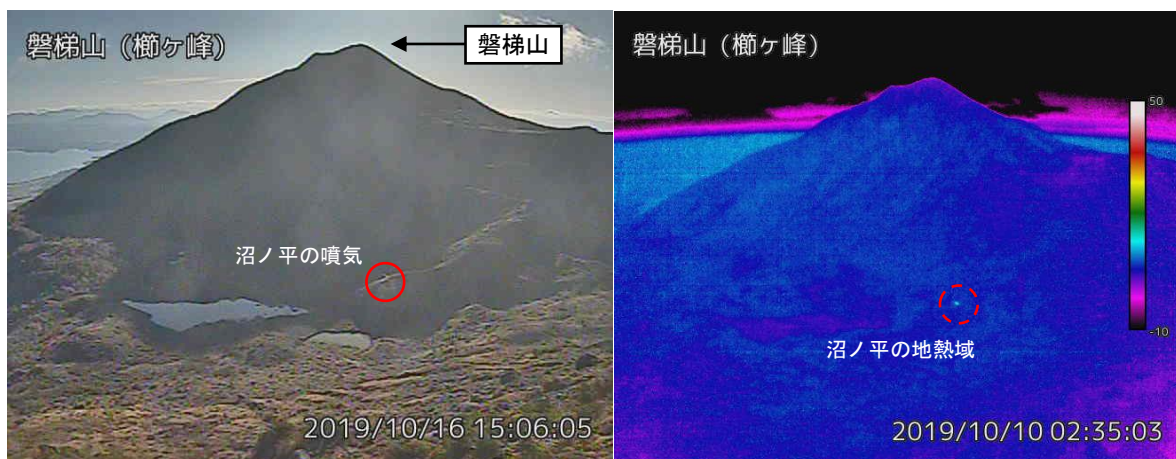


図2 磐梯山 沼ノ平周辺の状況と地表面温度分布（左：10月16日、右：10月10日）

- ・ 櫛ヶ峰監視カメラ（沼ノ平の北東約600m）の映像です。
- ・ 沼ノ平で弱い噴気が認められました。
- ・ 沼ノ平の地熱域（赤破線）に特段の変化は認められませんでした。

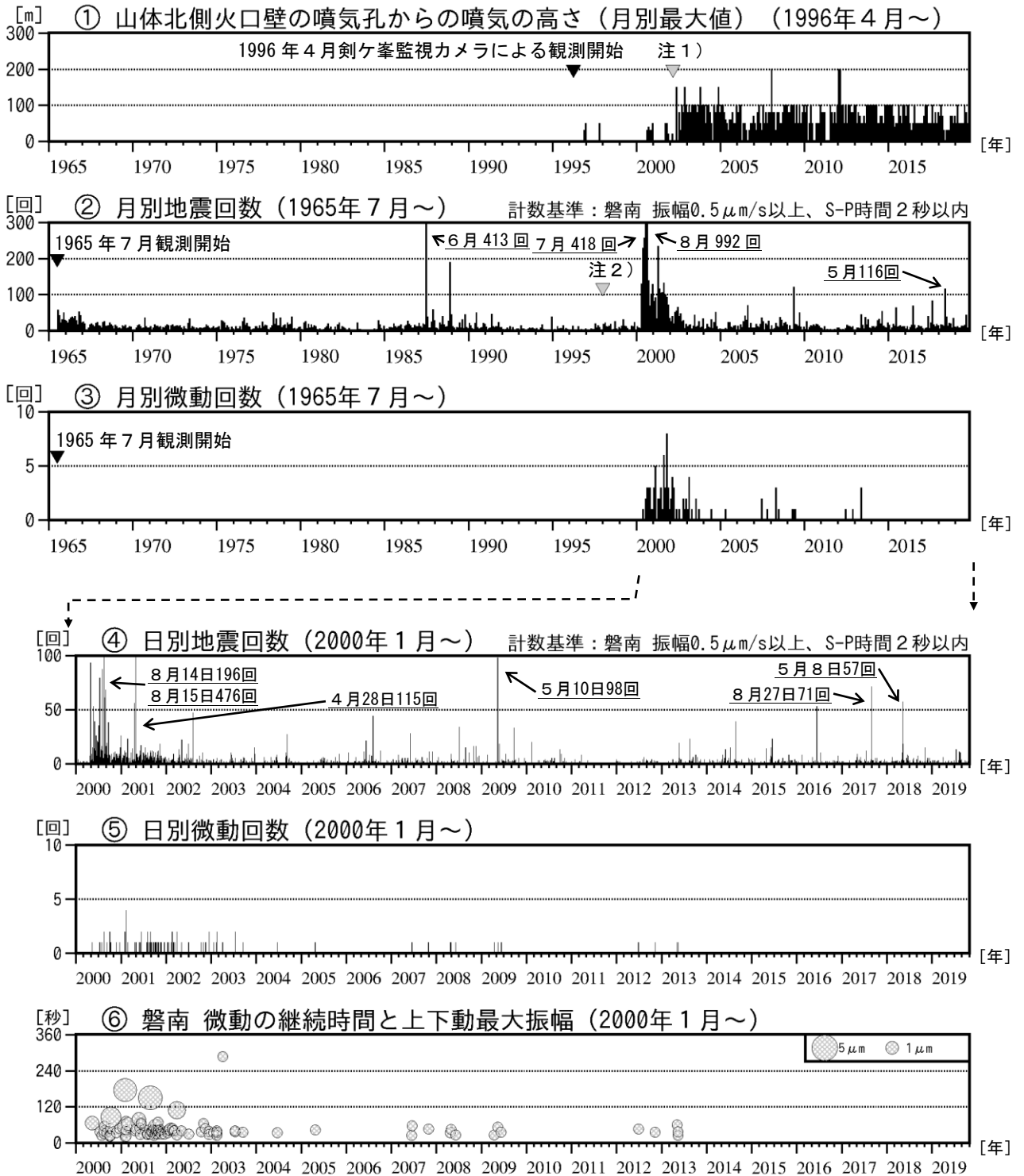


図3 磐梯山 火山活動経過図（1965年7月～2019年10月）

注1) 2002年2月以前は定時(09時、15時)及び随時観測による高さ、2002年3月以後は24時間観測による高さです。

注2) 1998年より計数基準をS-P時間5秒以内からS-P時間2秒以内に変更しました。

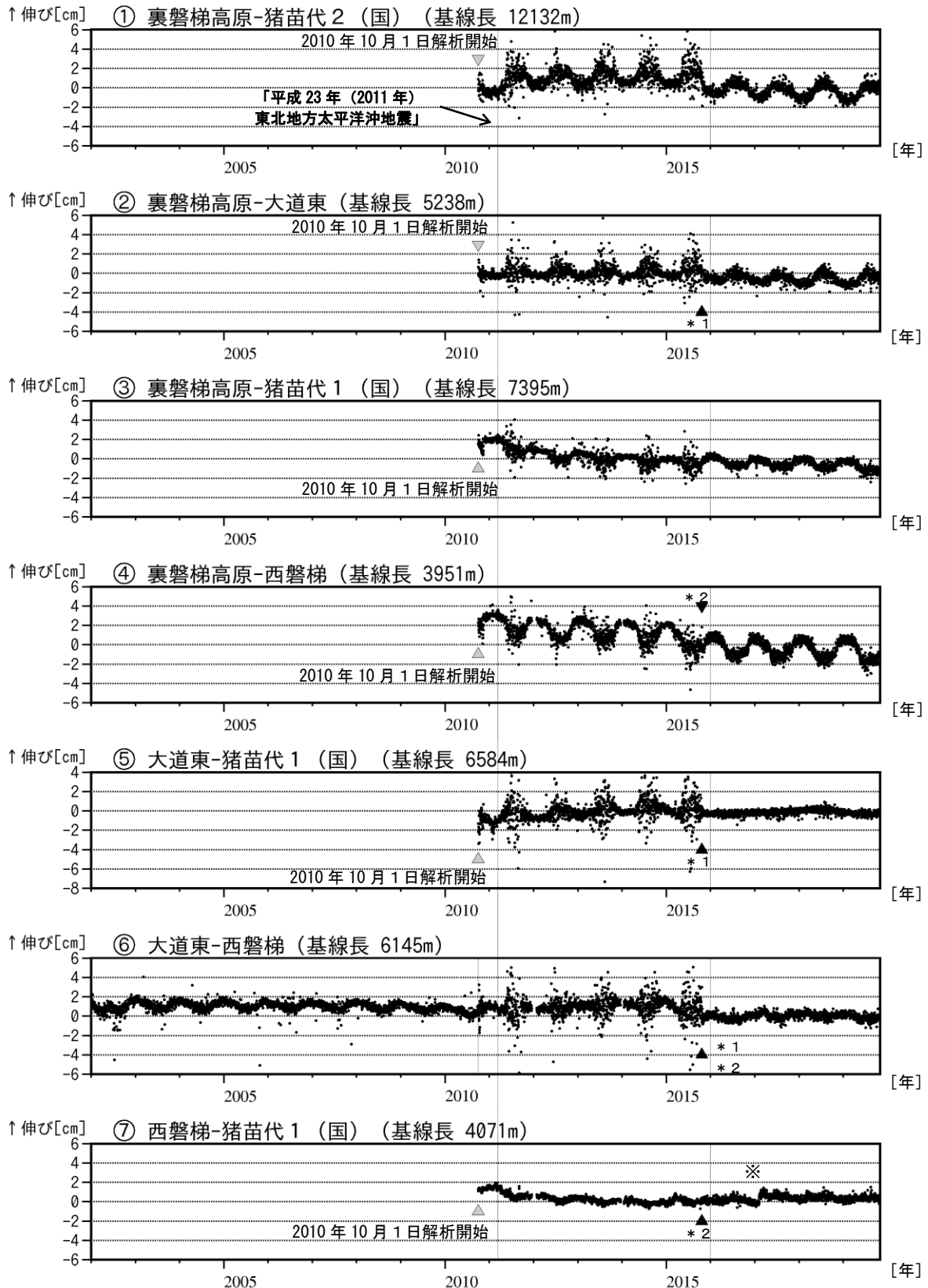


図4 磐梯山 GNSS 基線長変化図 (2002年1月～2019年10月)

- ・2010年10月及び2016年1月に、解析方法を変更しています。
 - ・「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
 - ・①～⑦は図6のGNSS基線①～⑦に対応しています。
 - ・グラフの空白部分は欠測を表しています。
 - ・(国)は国土地理院の観測点を示します。
- * 1 : 大道東観測点の機器更新及び移設を行いました。 * 2 : 西磐梯観測点の機器更新及び移設を行いました。
 ※西磐梯観測点に起因する変化で、火山活動によるものではないと考えられます。

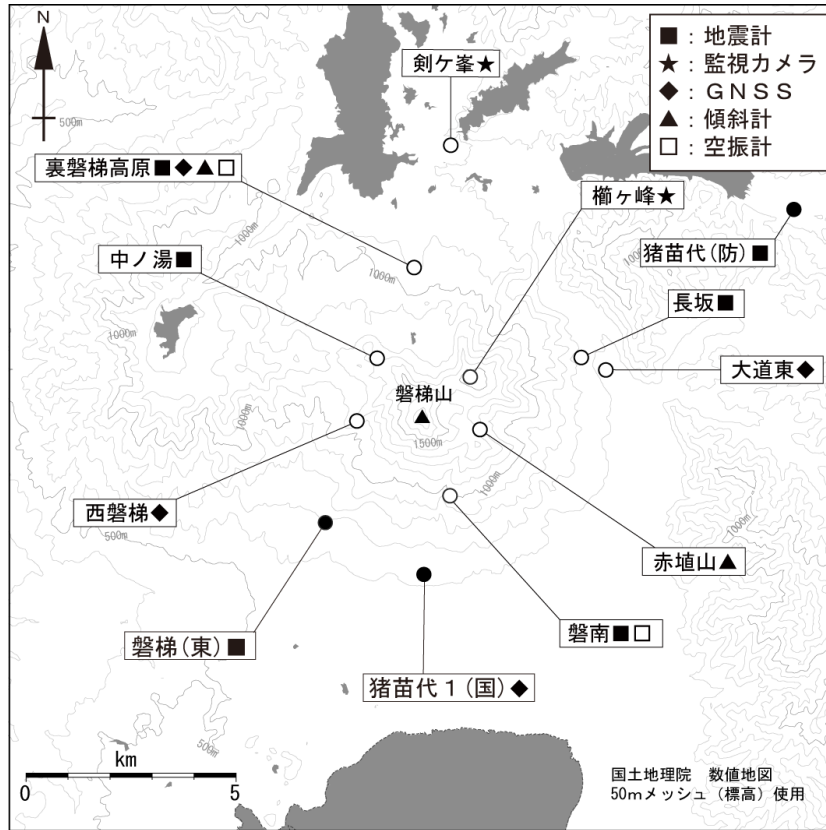


図5 磐梯山 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院 （東）：東北大学 （防）：防災科学技術研究所

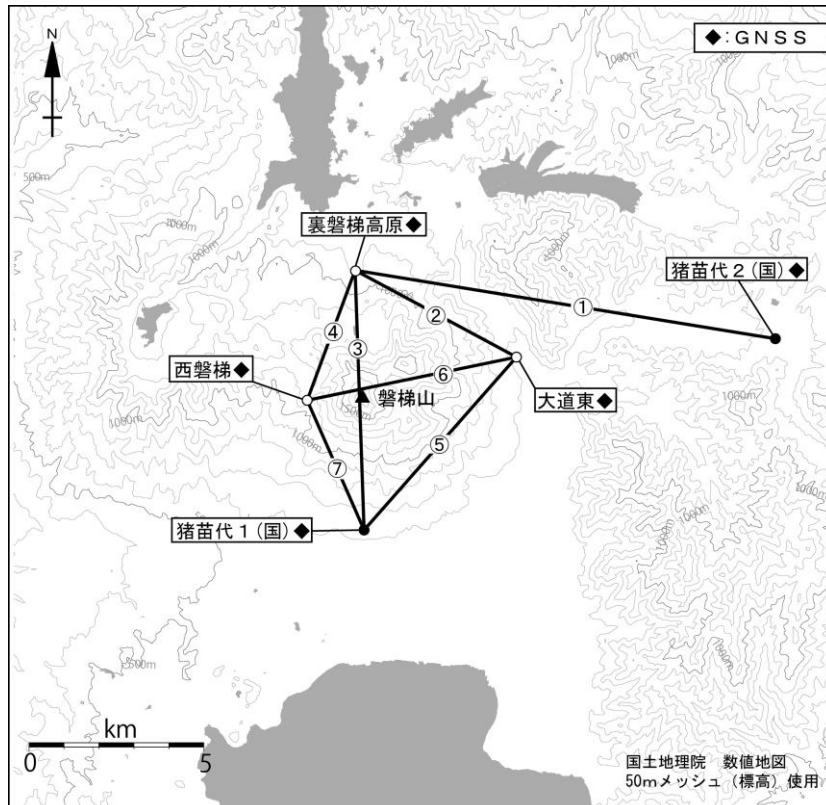


図6 磐梯山 GNSS 観測基線図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院